

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Apple Junior 相模原駅前教室		
○保護者評価実施期間	2026 年 1 月 20 日 ～ 2026 年 2 月 20 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27 (回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2026 年 1 月 20 日 ～ 2026 年 2 月 20 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 3 月 20 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「達成できたところや、継続して続けた方がいいことなど、子どものことをよく理解し計画を作成していただいていると思います。」 これからも継続して充実した計画の作成を行っていく。	専用アプリ（HUG）を活用し、利用ごとに活動内容やお子さまの様子を保護者へ共有している。 お子さまの活動状況や成長の様子が伝わるよう、継続的な情報発信に努めている。 保護者が安心して利用できるよう、利用時の様子をできるだけ速やかにお伝えしている。	活動内容だけでなく、個別支援の内容や支援のねらいについても分かりやすくお伝えする。 お子さまの成長や達成したことがより伝わるよう、記録内容の充実を図る。 写真や具体的なエピソードを活用し、活動の様子をよりイメージしやすい報告に努める。
2	「色々なことを体験させてもらって、それが子どもの成長にもつながっていると思います。」 様々な挑戦できる機会を設けることができる環境作り。	お子さまが普段の生活では経験しにくい活動や体験に挑戦できる機会を設けている。 一人ひとりの特性や発達段階に応じて、無理なく挑戦できる環境づくりを行っている。 成功体験を積み重ねられるよう、スモールステップを意識した支援を行っている。	お子さまの興味や関心を踏まえながら、新しい体験や挑戦の機会を充実させる。 一人ひとりの成長に応じて活動内容を工夫し、達成感を得られる支援を継続する。 活動を通じて得られた成功体験や成長の様子を保護者へ積極的に共有する。
3	「良い事をした時に、認めて褒めてくれる大人が身近にいる事は、プラスになっていると思います。」 子どもにとってプラスになることも大切に療育を行う。	お子さまの良い行動や頑張りを積極的に認め、適切なタイミングで褒めることを大切にしている。 成功体験を積み重ねられるよう支援し、自信や自己肯定感の向上につなげている。 お子さま一人ひとりの強みや成長に着目し、前向きな声掛けを心掛けている。	お子さまの小さな成長や努力にも目を向け、成功体験につながる支援を継続する。 お子さまの強みをより伸ばせるよう、一人ひとりに応じた関わり方を工夫する。 保護者とも成長や良い変化を共有し、お子さまを共に支える体制づくりを進める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「保護者同士の交流の機会を設けていただき、意見交換や気持ちの共有等をしたい。」 ニーズに応じた対応を検討する。	保護者同士が交流し、情報交換や悩みを共有できる機会が十分に設けられていない。 保護者の就労状況や生活環境の違いにより、一堂に会する機会を設けることが難しい場合がある。 保護者によって交流へのニーズや求める内容が異なるため、実施方法の検討が必要である。	保護者のニーズを把握しながら、交流会や保護者会等の実施について検討する。 情報交換や相談ができる機会を設け、保護者同士がつながりを持てる環境づくりに努める。 参加しやすい日時や実施方法を検討し、多くの保護者が参加できるよう工夫する。
2	「マニュアル等があるのは説明された気はしますが、実際に定期的な訓練等行われているかは分かりません。」 避難訓練を行った際、周知を今より行う。	防災や安全管理に関するマニュアルの整備や訓練の実施状況について、保護者への周知が十分ではない場合がある。 訓練を実施していても、その内容や実施状況が保護者に伝わりにくいことがある。 安全対策への取組について、保護者が把握できる機会が限られている。	避難訓練等を実施した際には、HUGやおたより等を活用し、実施内容や様子を積極的に周知する。 防災訓練や安全対策に関する取組について、保護者へ分かりやすく情報発信を行う。 訓練の目的や実施結果について共有し、安全への取組をより理解していただけるよう努める。
3	「経過記録は書かれているが、職員が全員でその記録内容を読んで振り返る機会は少ない。個々に読んで把握している状況のため、周知度にばらつきがあると感じる。」 職員同士でばらつきが起きないように対策していく。	経過記録は作成・共有されているものの、職員全員で内容を確認し振り返る機会が十分に確保できていない。 個々で記録を確認することが中心となっており、理解度や認識に差が生じる可能性がある。 支援に関する情報共有の方法によっては、重要な情報の周知にばらつきが生じる場合がある。	定期的にケース会議やミーティングを実施し、経過記録の内容を職員間で共有する機会を設ける。 支援上の重要事項や留意点について、職員全員が共通認識を持てるよう情報共有の仕組みを強化する。 記録の確認状況を把握し、必要な情報が確実に周知される体制づくりを進める。